

第6章 景観計画区域

1 区域設定の考え方

1) 県内の現状

景観法の施行後、愛媛県では多くの市町が景観計画を策定しています。鬼北町の景観計画を策定するうえでは、それらの策定済み市町の実情などを考慮したうえで策定します。

県内の傾向としては、特に景観的に優れている地区を部分的に設定する傾向にあります。さらに、行政区域全体が景観に対する意識が十分熟していない場合は、将来的に全域を設定するが、当面はモデル的に一部を優先的に設定する自治体も多く存在しています。

行政区域全体を設定している松野町、内子町及び上島町は、全域に景観要素が存在していることから現状の景観を守り育てるうえで全町を区域設定しています。

2) 本町での考え方

景観計画区域では、現状の景観を維持し将来における良好な景観形成を行う上で、日常生活のなかで一定のルールを決め、規制を行うこととなります。そのようなことから、区域を設定する上では、関係者の理解が不可欠となります。

そこで鬼北町の景観計画では、県内の現状を考慮の上、本町におけるこれまでの景観形成への取り組みやアンケート調査結果から、当面は一部分を優先的に設定し、将来にわたり現状の景観を維持するとともに、守るべき景観について本町の特徴を十分反映した区域設定を行うこととします。

2 区域設定の方針

本町における景観計画の区域設定では、景観特性、住民アンケート調査や基本方針を受け、以下のような区域設定を行います。

1) 広見川の河川流域景観

鬼北町は、行政区域の8割強が樹林地等で占められ、さらに低地部は四万十川の支流をはじめ

とする中小の河川とその周辺の田園風景が景観としての特徴となっています。なかでも町内の中央部を流下する広見川は、多くの町民に親しまれているとともに、町内における代表的な景観要素として存在しています。

現在も四万十川の支流としての清流の確保への取り組みが行われていることや、町民への意向調査における町民の広見川への思い入れなどから、将来的にも本町の貴重な景観要素として受け継いでいく必要があることから、広見川の河川区域を本町における景観計画区域として設定します。

2) 愛治地区・大宿の棚田の農村（田園集落）景観

本町には、水田としての景観として、広見川や三間川、奈良川の流域に広がる平坦な景観と小河川の流域に存在する棚田などがあります。小河川沿いの棚田は本町の地形から生まれた産物として、先人たちの農地の確保への強い信念が感じられる光景としてその意欲が伝わってきます。

なかでも、愛治地区の大宿の棚田は、ほかの棚田と異なり地区から産出した石を積み上げた石積から構成されており、周辺の環境に溶け込むとともに地域の景観を際立たせています。

さらに、近年「棚田とイベント：穂田るの里の幻灯火」が行われており、貴重な景観を存続させる活動が始まっています。そのようなことから、愛治地区の大宿の棚田を景観計画区域として設定します。

3) 幸田地区まち並みと日吉明星ヶ丘施設群の歴史文化景観

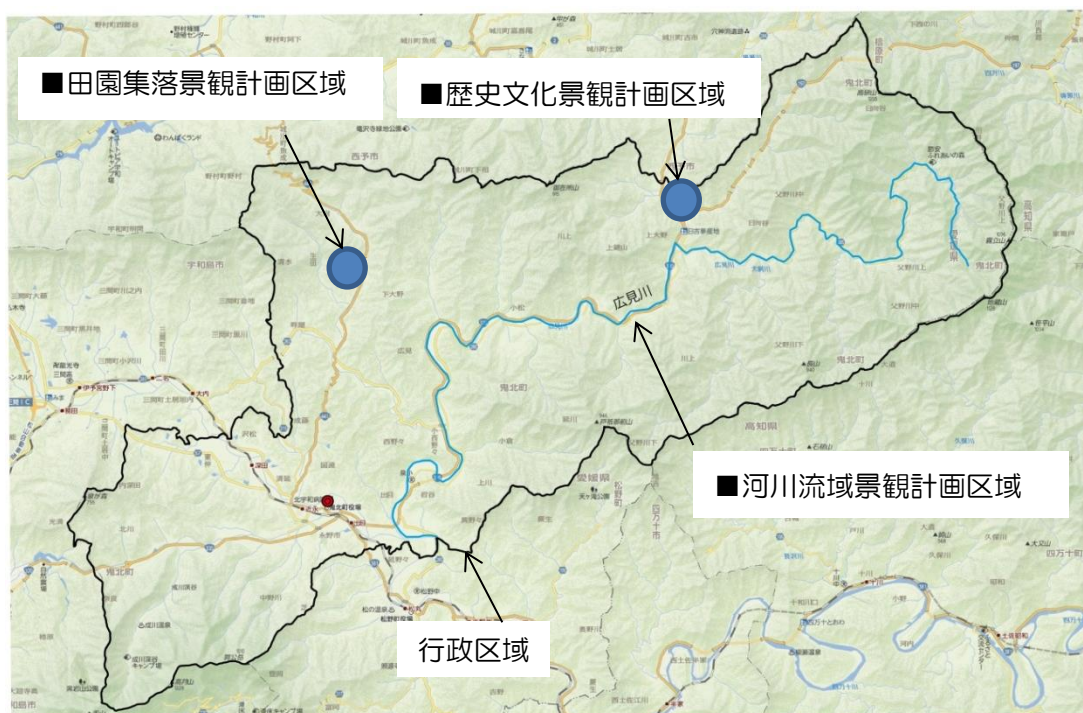
本町では日吉地区の日吉明星ヶ丘施設群とその周辺の市街地が町内において貴重なまち並みを形成しています。日吉明星ヶ丘施設群には、国登録有形文化財としての井谷家住宅、明星草庵、歴史的な建造物の歴史民俗資料館、大野作太郎地質館などが立地し、往時の面影がしのばれる空間を形成しています。その隣接地に幸田地区の古いまち並みが存在しています。

これらの日吉明星ヶ丘施設群と幸田地区のまち並みは地域の歴史的な景観を形成しています。さらに近年は、大宿の棚田同様、「キャンドルナイト」や「ひな祭り」などが開催されています。

本地区は、本町を代表する市街地景観を形成しているうえに、貴重な景観を維持するうえでのイベントなどが開催されていることから、さらに積極的に地域の景観を維持するうえでも「日吉明星ヶ丘施設群と幸田地区のまち並み」を景観計画区域として設定します。

3 景観計画区域の位置

- 河川景観 → 河川流域景観計画区域-----広見川河川区域と寺院・遺跡・自然景観群
- 農村景観 → 田園集落景観計画区域-----愛治地区の大宿の棚田
- 市街地景観 → 歴史文化景観計画区域-----幸田地区まち並みと日吉明星ヶ丘施設群



4 景観計画区域の設定

1) 河川景観地区-----日吉、三島、泉地区を流下する広見川河川区域

<区域の範囲>

日吉、三島、泉地区を流下する広見川河川区域と河川に隣接して存在する岩谷遺跡及び近接する善光寺薬師堂等の歴史・文化資源

<区域の特質①-----広見川流域>

夏のアユ漁・ウナギ漁、秋のカニ漁で知られる広見川は、日本最後の清流と形容されている四万十川の支流に属していて、その源流を鬼北町と高知県の県境に発しています。

広見川の水は、数千年間延々と岩肌を刻み続けてきました。その自然の営みが我々に美しい造形美の景色を贈ってくれ、その天然の奇岩、怪岩は、春のツツジ、夏の若鮎の躍動、桂林を思わせる雪景色など、私たちを楽しませてくれる自然の宝です。（町指定記念物）



<区域の特質②-----岩谷遺跡>

岩谷遺跡は、岩谷地域を流れる広見川東岸の河岸段丘上にある縄文後期（3000年前）の遺跡です。この遺跡は水路をはさみ上段と下段に分かれており、多数の縄文後期の土器や石器が発見されています。中でも、下段の水田からは長さ75mにわたる環状列石や組石等の配石遺構が確認できています。配石遺構は東日本では多く存在するが、西日本で出土することはまれで、たいへん珍しいものです。祭祀遺構の一部が保存され、昭和57年（1982）3月19日に県指定史跡になりました。



<区域の特質③-----善光寺薬師堂>

善光寺薬師堂は、医王山善光寺の境内仏像です。この薬師堂は、室町期の禅宗様式の特徴を備えた建物であり、しかも四国では最南端に位置する貴重な物件として国の重要文化財に指定されています。



広見川流域図

2) 田園景観地区-----愛治地区の大宿の棚田

<区域の範囲>

- 丘陵地に存在する石積みの棚田とその下部の河川沿いに広がる水田

<区域の特質>

- 棚田において、イベントとしての穂田るの里の幻灯火が行われています。
- 愛治地区は国道 441 号沿いに平坦地での農地が見受けられるものの、大半は両側が山間地となっています。それらの山間地を縫うように国道 441 号が北上し、その沿道に水田を中心とする農地が広がり、一部丘陵地を切り開いた水田と一画に農家住宅が立地しています。
- 本地区はそのような土地利用の代表例として、斜面地の特徴を生かした水田として他の棚田とは異なる石積みによる棚田を形成しています。



3) 歴史景観地区-----幸田地区まち並みと日吉明星ヶ丘施設群

<区域の範囲>

- 幸田地区まち並みと日吉明星ヶ丘施設群






<区域の特質>

- 大宿の棚田同様、幸田地区では「キャンドルナイト」や「ひな祭り」が行われています。
- 本地区は旧日吉村の中心地区で、古いまち並みが多く残っている地区でもあります。
- その中において幸田地区のまちづくりは現在においても古いまち並みを形成しており、隣接する日吉明星ヶ丘施設群と一体とした歴史的景観を形成しています。




5 景観タイプ別景観形成方針

1) 河川景観-----広見川河川区域と寺院・遺跡・自然景観群

・河川流域景観計画区域ゾーン	
景観の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を 1,000m 級の山々に囲まれた山里深くに源を発する河川で、四万十川最大の支流となっている。 ・河川の中に、天然の奇岩などの轟の甌穴やそのほかの甌穴が景観を形成している。 ・河川に隣接して、岩谷遺跡があり、さらに近接して善光寺薬師堂が立地している。 ・護岸はいまだに自然景観を維持している箇所が多く見受けられる。
目標像	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川支流の保全 ・現状の景観を活かすとともに、良好な景観創出 ・地域の骨格をなす豊かな自然環境の保全
景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最後の清流の保全と周囲の良好な田園風景の形成 ・豊かな水辺空間の維持と自然を維持する河川護岸形成
現状の景観	    

2) 農村景観地区-----愛治地区の大宿の棚田

・山間地田園集落ゾーン	
景観の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 大宿地区の石積みによる棚田であるが、本町は平場が比較的少なく、水田を確保するうえで斜面地を切り開いた形成期が感じられ、本町の農地の特徴の一つともなっている。その中でも整然とした石積みからなる本地区の棚田は維持管理が行き届いた景観といえる。 本地区は、他地区でみられるような曲線的な棚田とは異なり、直線的な棚田として優雅さはないものの、手入れが行き届いた整然とした佇まいは、力強さが感じられ、農地所有者の水田へのこだわりが感じられる景観といえる。 本地区は、農地所有者の意志に依存することとなるが、鬼北町の代表的な農地の形態として今後とも保全のうえ、維持管理すべきといえる。
目標像	<ul style="list-style-type: none"> 生活力を感じる田園景観 現状の景観を活かした田園風景 地域の骨格をなす豊かな自然環境
景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 営農活動と石積みが織りなす力強い景観形成 落ち着き、生活感のある営農地風景の維持 都市部と農村部のイベント等の交流を活かした、営農活動の継続と棚田の維持 援農等による農家支援での景観維持
現状の景観	 <p>棚田とイベント：穂田るの里の幻灯火</p>

3) 歴史景観地区-----幸田地区のまち並みと日吉明星ヶ丘施設群

・歴史文化・市街地ゾーン	
景観の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 幸田地区の建物は現在も利活用しており、今後は景観形成について関係者と十分話し合いをする必要がある。 「大正茅葺民家・明星草庵」、「鬼北町歴史民俗資料館」、「武左衛門供養堂・井谷家」「武左衛門一揆記念館大野作太郎地質館」などから構成される日吉明星ヶ丘施設群、日吉支所周辺の歴史的まち並みなどが存在し、一団としての良好な景観を形成している。 一団としたまとまりのある歴史的景観としては鬼北町で最大規模といえることから、今後も積極的に維持管理すべき景観要素といえる。
目標像	<ul style="list-style-type: none"> 伝統・文化を継承したまち並み 伝統・文化を感じる質の高いまち並み 現状の景観を活かしたまち並み
景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な「趣」を意識した景観形成 屋外広告物の形状や色彩など、統一感のあるまち並みの景観形成 歴史・文化施設を活かした観光地を目指した景観形成 居住者・交流人口を増やした、賑わいのある地域としての景観形成
現状の景観	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">幸田地区のまち並み及びキャンドルナイト</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center;">日吉明星ヶ丘施設群</p>